

# 「ペット防災」を考える

いざ、という災害時。家族の同然のペットはどうしたらいいの？  
その時にあたふたしても、もう遅い。災害が起きる前から備えておきましょう。  
**2013年、環境省は災害発生時、ペットを原則[同行避難]させることを明記した初めてのガイドラインを公表しています。**



写真提供：新潟県、他

いまやペットは15歳以下の子どもより多く、3世帯に1軒はペットを飼っています。東日本大震災では「避難所へ行くと迷惑になる」とペットと家にいたり、助けに戻って命を落とした飼い主さんが大勢います。家族同然のペットを亡くして心に深い傷を負った人もいます。ペットと一緒に逃げられる社会であれば、こんな悲しいことは起きません。飼い主さんも、そうでない人も「ペット同行避難」についてじっくり考えてみませんか？



# 日頃からの備え①

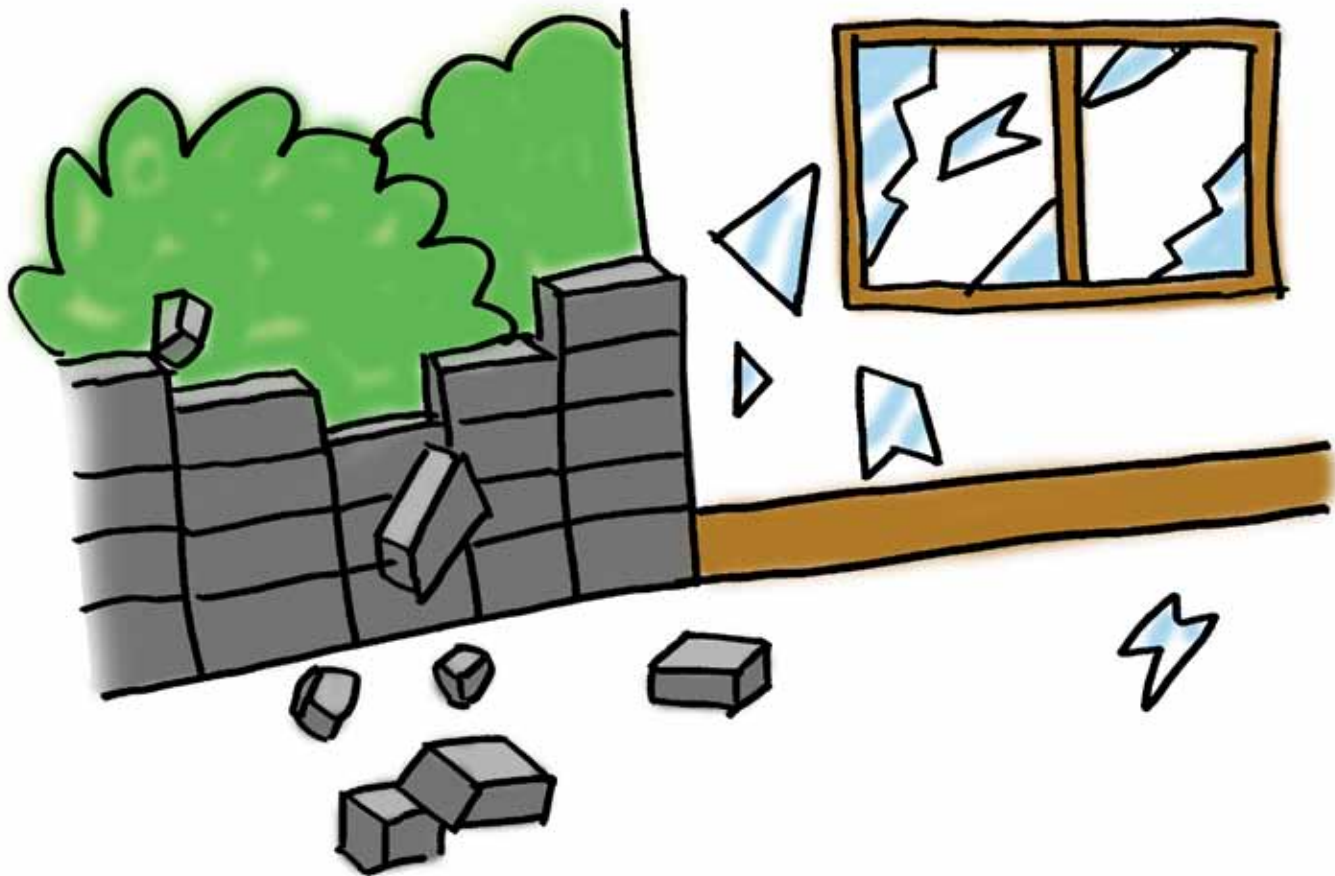
## <飼い主が行っておく例>

- ① 暮らしの中での防災対策
- ② ペットのしつけと健康管理
- ③ ペットを迷子にしない
- ④ ペットの避難用品や食料の確保

### ① 暮らしの中での防災対策

災害時にペットを守るには、まず**飼い主さんが無事であること**が大前提。「災害に強い住まい」にしておきましょう。

- 家具の固定や転倒防止、ガラス飛散防止フィルムを貼る、ブロック塀など崩壊しやすい箇所の点検 など
- ペットの首輪、リード、ハーネス、名札、キャリーなどが痛んでいないか定期的に点検



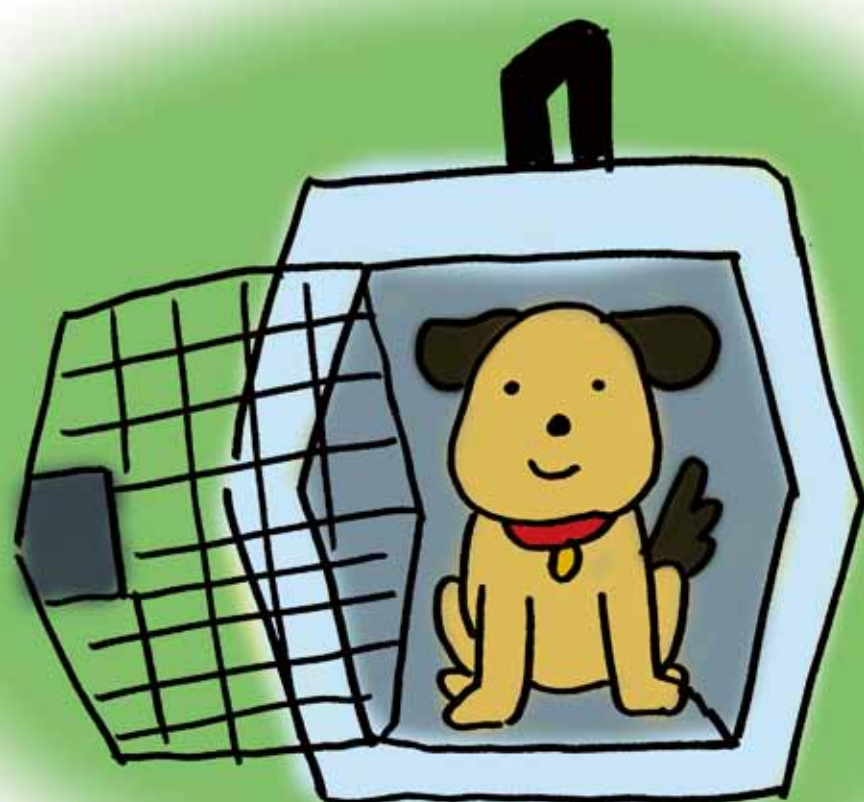
### ② ペットのしつけと健康管理

避難先では多くの人間や動物と接触します。ストレスなどからペットの健康状態が悪くなることもあります。また、**集団生活を想定した**日頃からのしつけと健康管理は大切なポイントです。



### しつけと健康管理の例

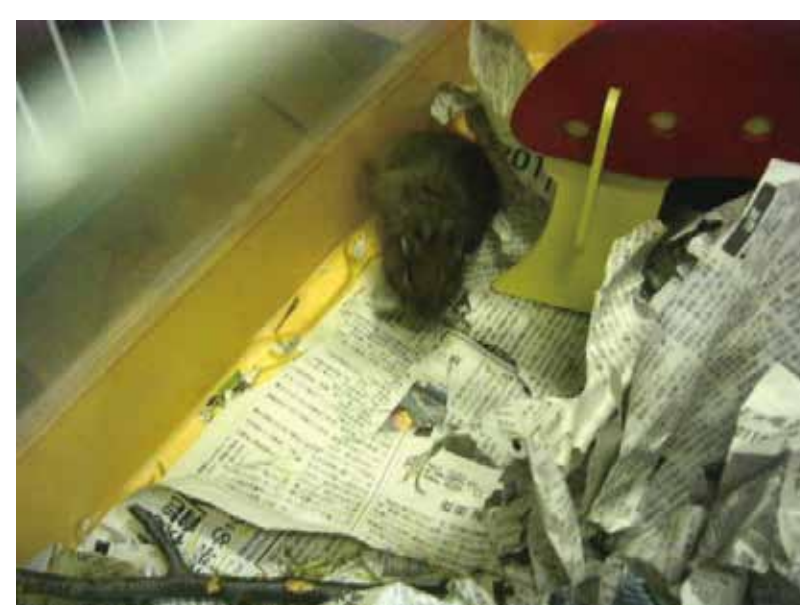
- ケージやキャリーに嫌がらないで入る（避難先でペット自身のストレスも軽減）
- 人や他の動物を怖がったり、攻撃的にならない
- 決められた場所でトイレができる
- 予防接種を接種しておく
- ノミや犬フィラリアなど寄生虫の予防・駆除をしておく
- 不妊・去勢手術をしておく
- 犬の場合は「待て」「おいで」「お座り」「伏せ」など基本的なことができ、咬んだり、不必要に吠えない



### 犬猫以外のペットについて

小動物は犬・猫と違って体も小さく、環境の変化にも敏感です。またケージや水槽の中で飼育されているため、自力で逃げ出すことはできません。最初に飼う時に、緊急時に対応できるかどうか也十分考えましょう。

- 安全な位置（壊れた家具の下敷きにならない位置）にケージ等を置くようにする
- 避難用のケージや水槽の用意（持ち運びできるもの）
- 停電時に備えて保温対策を忘れずに！（カイロ、毛布、保温シートなど電気を使わないもの）
- フードや水などはひとまとめにしておく
- エキゾチックアニマルなどは脱走防止にも注意する



東日本大震災で避難したテグー。他にフェレット、小鳥、カメなどもいた。



# 日頃からの備え②

## ③ ペットを迷子にしない

ペットとはぐれても家に帰れるようにしておきましょう。

- 迷子札 … 誰が見てもすぐわかる首輪などに付け、**飼い主さんの氏名、電話番号など連絡が取れる情報**を記す
- マイクロチップ … 外れる可能性が低く半永久的に識別可能
- 犬の場合 … 鑑札と狂犬病予防注射済票は付けておく義務が飼い主さんにある
- 写真を撮影 … 携帯などにペットの特徴がわかる写真を保存しておく



## ④ ペットの避難用品や食料の確保

飼育に必要なものを少なくとも**5日分(できれば7日以上)**準備し、ペット用緊急持ち出し袋を作っておく。非常時は、優先順位の高い順に持ち出しましょう。

### 持ち出し袋の中身例

#### 優先順位1 ● 命や健康にかかわるもの

ペットの薬・療法食・フード・水(各5日分以上)、予備の首輪、リード、ハーネス(猫は首輪とリードより外れにくい)、食器、ケージまたはキャリーケース、ガムテープ(ケージの補修など多用途) など

#### 優先順位2 ● 飼い主や動物の情報

※ペットの健康手帳を作り、携帯電話にも記録しておく。  
飼い主の連絡先、ペットの写真、ワクチン接種歴、既往症(常備薬)、かかりつけの動物病院名、飼い主以外の緊急連絡先 など

#### 優先順位3 ● ペット用品

ペットシート、排泄物の処理用具、猫用トイレ砂、タオル、ブラシ、おもちゃ、ポリ袋と新聞紙(トイレやゴミ袋など多用途) など





# 避難訓練

## 災害時にあわてない心がまえ

住んでいる地域の防災計画で、災害時の避難先や避難ルート、避難所にペットを連れて行く際の注意事項を確認しておく。**家族でペットを連れて避難所へ行く訓練**をし、所要時間や危険な場所をチェックしておくこと、より安全に避難できます。

## 避難訓練のチェックポイント

- 避難所までの所要時間
- ガラスの破損や看板落下などが想定される場所
- 通行できない場合の迂回路
- 避難所でのペットの反応や行動
- 避難所の飼育環境
- 動物が苦手な人への配慮

## さまざまなケースを想定して家族で役割分担を決めておく

- ・ 家族間の連絡方法、集合場所
- ・ 非常用持ち出し袋の保管場所、中身
- ・ ペットをどう避難させるか
- ・ 家族が留守の場合ペットをどうするかなど



## ペット同行避難所設置訓練、防災訓練の様子（新潟市）



日頃から防災訓練、避難所訓練に参加して意見を出すことで、いざという時に役立ちます！



- 災害対策の会合や避難訓練を行う時に「ペット同行避難」を地域みんなで話し合っておく
- 普段からご近所と良好な関係を築き、コミュニケーションや飼育マナーに気を配る
- 避難所以外にも親戚や友人などペットの一時預け先を探しておく



# 災害が起きたら

## 人とペットの安全確保

まず落ち着いて。自分の身の安全を、次にペットの安全を確保。ガラスの破片や倒壊した家具に気をつけながら非常持ち出し袋を用意し、ガスの元栓を閉めます。

- 災害時は**ペットもパニックになり、いつもと違う行動をとることがある**ので注意
- ペットを落ち着かせ、逃走・脱走やケガなどに配慮。リードやハーネスをつけたり、ケージに入れるなどペットの安全を確保(首輪やリード、ハーネスが緩んでいないかチェック)
- **キャリーケースは入口をガムテープで固定**



## ペットとの同行避難

飼い主はペットと一緒に避難する「**同行避難**」が原則です。

- 発災時にペットと離れた場所にいる場合は、自分自身の被災状況、周囲の状況、自宅までの距離、避難指示などを考え、飼い主自身がペットを避難させることが可能かどうか判断
- ペットとはぐれたり、やむを得ず一緒に避難できず家などに置いてきた場合は、ペットの情報や避難時の状況について自治体の動物担当部署や警察などに届ける



猫との同行避難の工夫例



# 避難生活

避難所や仮設住宅はペットと「同行避難」することが原則ですが、実際は、各自治体、各避難所の運営によってさまざまです。ルールとマナーを守りながら、**飼養管理は飼い主の責任**で行います。

## 飼育マナーと健康管理

避難所・仮設住宅では、さまざまな人が集まり共同生活をします。動物が苦手な人、アレルギーの人、ペットに不用意に手を出す人など通常の生活より周囲に配慮しましょう。

## 今までの災害では…

- ペットが避難生活の癒やしや支えとなった
- 反面、咬まれた、鳴き声への苦情、毛やフンが不衛生などからトラブルも発生

## 飼い主ができること

- ペットのストレスを取り除き、体調をくずしたり、病気の発症を防ぐ。周囲にも配慮し、衛生的に管理をする



## 車中避難での注意

### 車中避難での注意

狭い車中には思ってもみない危険が!**自分は大丈夫と思わず細心の注意を払ってください。**

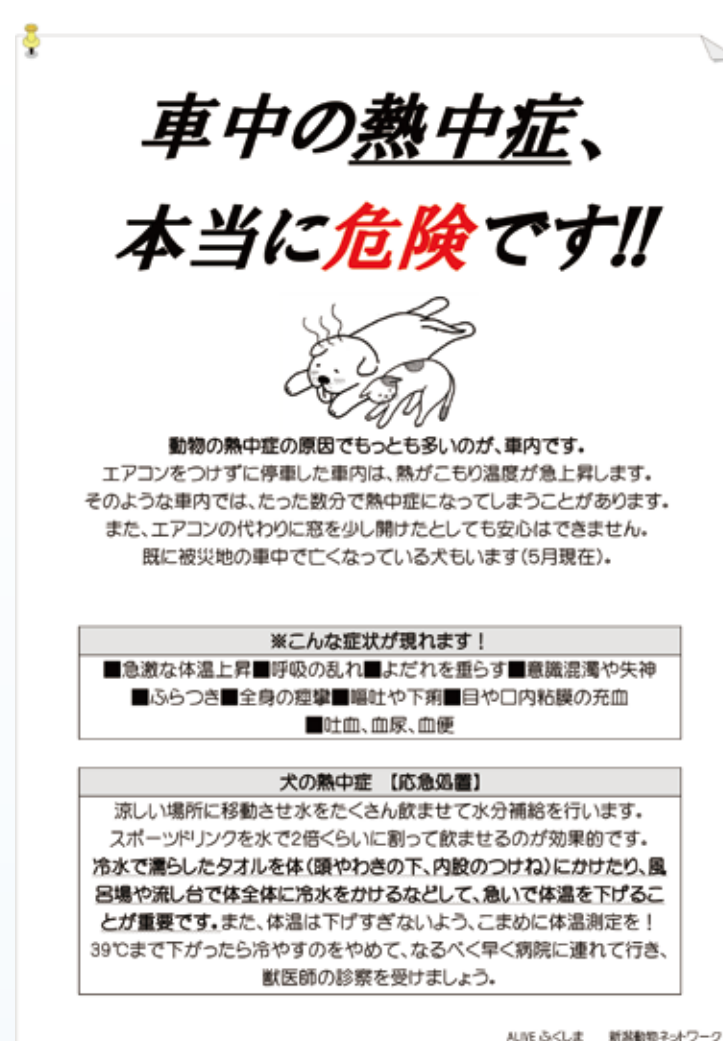
### ペットの熱中症?すぐに病院へ!

外では暑さを感じなくても車中はあっという間に温度が上昇。目を離した際に熱中症で亡くなったペットもいます。**新潟県内でも5月下旬~9月下旬**は換気や水分補給を!

- 症状は…意識がない、ぐったりして動けなく、体が熱い、息が荒い、舌が異常に赤い など

### 飼い主さんのエコノミークラス症候群

狭い空間に長時間いると足の血流が滞り、小さな血の塊ができます。それが肺などに詰まり重篤な状態に。**最悪の場合は死亡**します。外で運動したり、水分をこまめにとって血の巡りを良くしましょう!



配布したチラシ



すだれで日除けをしたをした熱中症対策

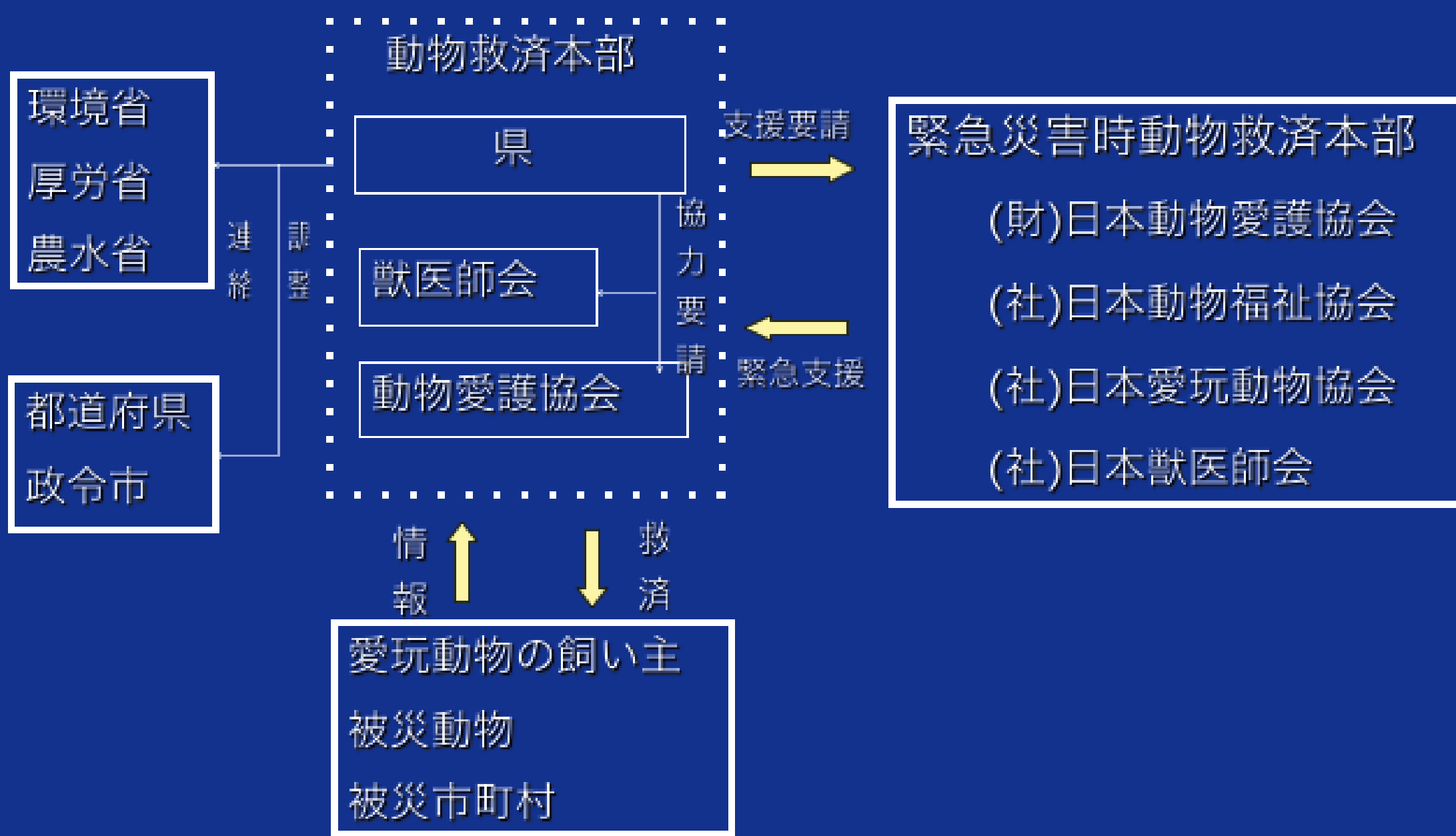


# 東日本大震災とNDN①

## ～新潟県はペット防災先進県～

2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震。ペットを連れた多くの方々が福島から避難されてきました。新潟県地域防災計画には県内で発生した災害の教訓から「愛玩動物の保護対策」が盛り込まれており、国内の都道府県で最も早く「ペットを受け入れます」と宣言。「愛玩動物の保護対策」に基づく下図の仕組みから、地震発生後1週間目には新潟市内3カ所の避難所内にペットスペースが設置され、NDNも避難所の設置・運営に関わりました。福島県内に仮設が完成し始めた8月頃まで福島の方々とペットは避難所で生活されました。

県、県獣医師会、県動物愛護協会の3者で動物救済本部を立ち上げ、動物救済活動を実施する。必要に応じ緊急災害時動物救済本部に支援を要請する。



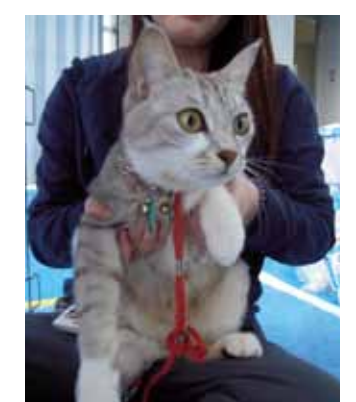
新潟県には約300頭の犬や猫などが避難してきました



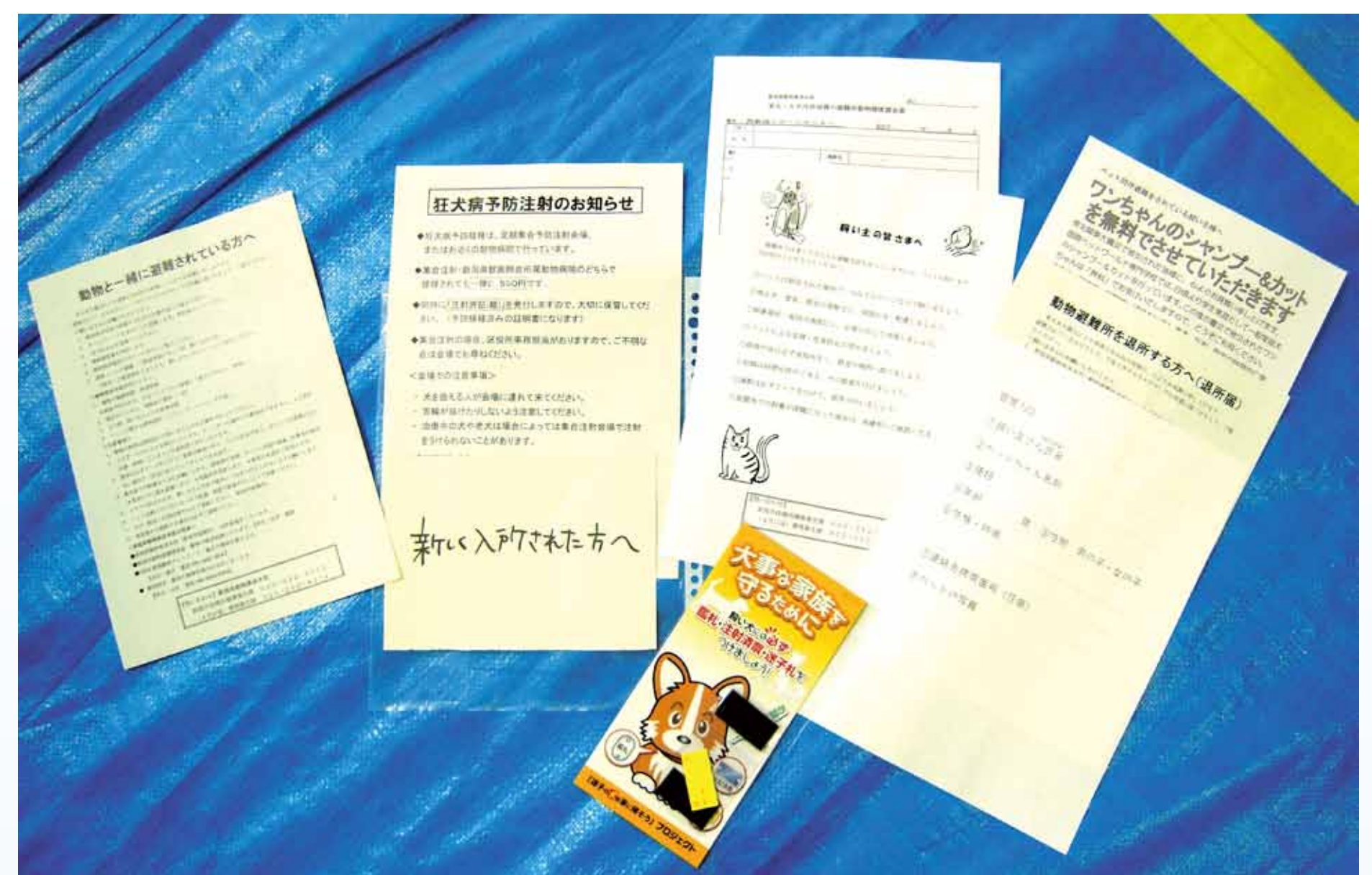
一時は避難所の廊下にまでペットがあふれていた



家族であるペットと避難してきた皆さん



自転車小屋を利用した避難スペース



ペットスペースに入る際に配布した書類



# 東日本大震災とNDN②

## ～避難生活の長期化～



避難所ペットスペース入口

長引く避難生活の中で下記が実施されました。

- 飼い主さん同士で「飼い主の会」を作り、助け合う
- 周囲に配慮したルールを決める
- 避難所や仮設ではペットOKと入れないエリアを明確に分ける
- 支援物資(フードやペットシートなど)の配布情報を共有
- 災害ボランティアの支援を活用 など



退出時は毛をコロコロで落としアレルギーの方へ配慮



全国から届いた支援物資や応援メッセージ



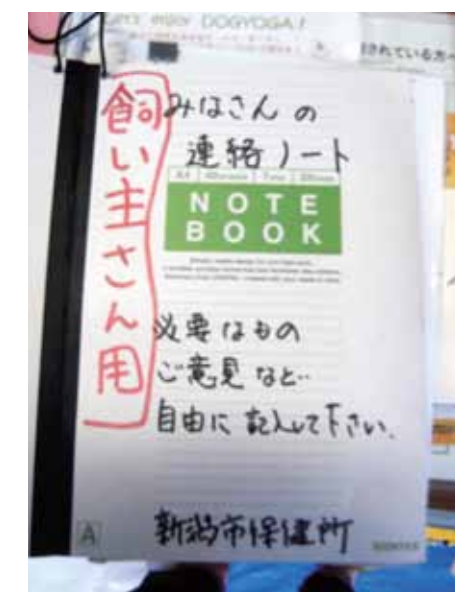
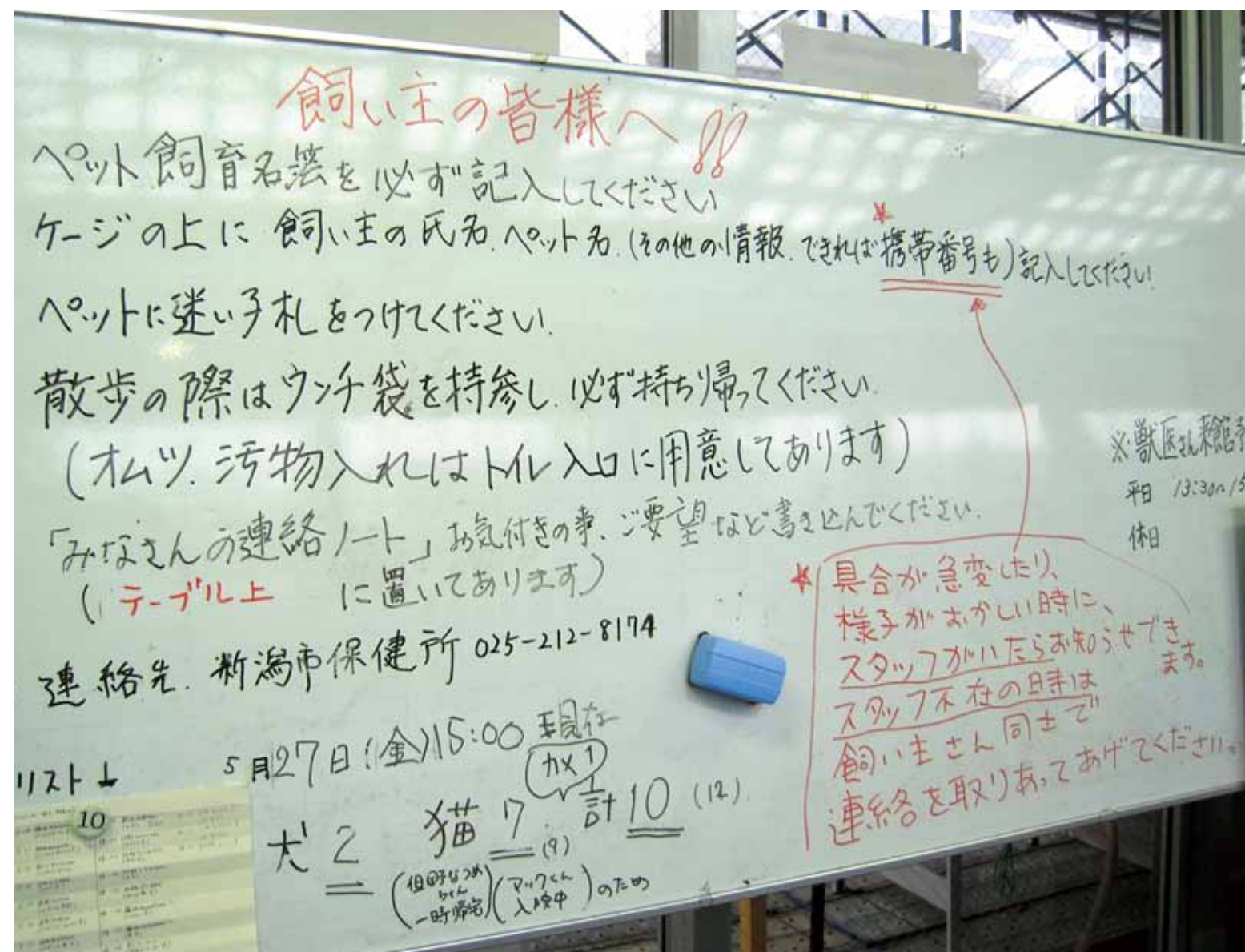
ペットはすべて迷子札を着用



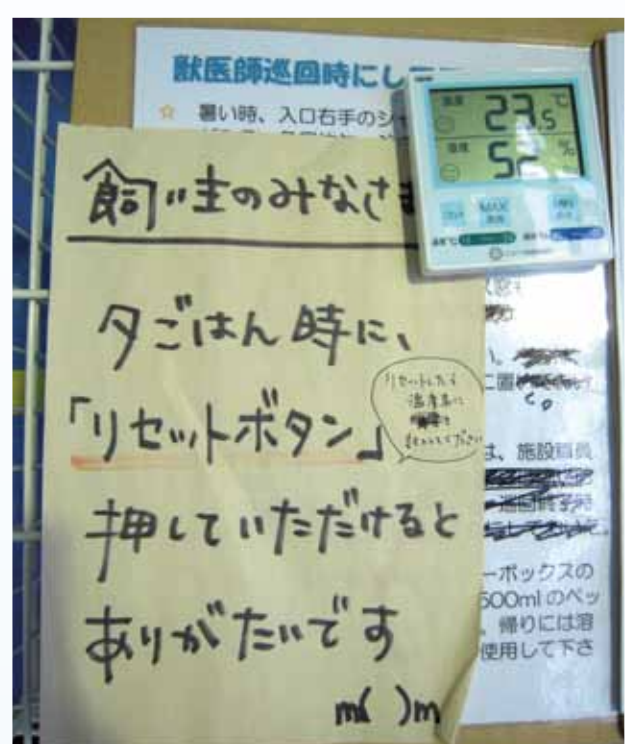
みんなで決めたルールや注意を呼びかける貼り紙



飼い主さんとペットの暮らしに必要な情報を掲示



ホワイトボードや飼い主さんノートに連絡事項を記入



夏場を迎え、室温に注意



NDN独自サイト『被災地支援ボード=東北地方太平洋沖地震=』を立ち上げ正確な情報を発信

ペットと離れ離れになり必死に探す飼い主さんも多かった





# 東日本大震災とNDN③

## ～福島での活動～

大規模災害時は、その後「避難所→仮設住宅→災害復興住宅」と、非日常的な環境で共同生活を送る場合があります。NDNでは中越地震、中越沖地震の経験から、福島県内の避難区域の自治体にペットと同居できる仮設住宅の建設を呼びかけました。結果、南相馬市ではペットと暮らせる専用の仮設住宅が全体の1割で建設され、大熊町では全戸でペットと暮らせる仮設住宅が実現しました。



鳴き声気にせず ■飼育ルールも  
 緊急仮設住宅の管理について  
 ・緊急避難措置としての一時的提供であるため、光熱水費、共益費、駐車場料金等は入居者負担。ペットは、飼い主のしつけが行き届いておらず、不快感を招く恐れがあるため禁止。糞尿等は入居者の故意または過失等が行われます。  
 世ごとに自治会を組織し、代表者の連絡調整をお願いすること。避難所に届いた仮設住宅申請書。ペットは不可の文字が…



「ALIVEふくしま」とともにホテルなど宿泊施設に分散している大熊町のペットの実態調査を行う。(2011年5月)

当初、南相馬市の仮設計画はすべて「ペット同居不可」で進んでいた。新潟市には同市から避難してきた飼い主さんが多く、「仮設ができて帰れない」と飼い主さんとともに同市へ声を上げた結果「ペット同居専用仮設」が認められた



全国からの支援物資を仮設へお届け



南相馬市での支援活動。仮設住宅でトラブルなくペットと暮らすためのノウハウを新潟県での被災経験からお伝えするNDN岡田代表(オレンジのTシャツ)



大熊町役場の皆さんとNDNスタッフ



# 東日本大震災とNDN④

## ～福島での活動～

南相馬市と大熊町のペット飼育可仮設をすべて周り、仮設での飼育のノウハウをお伝えするとともに個別の飼い方相談にも対応。新潟に避難していた飼い主さんとの再会もありました。



訪問時に健康チェックも行いました

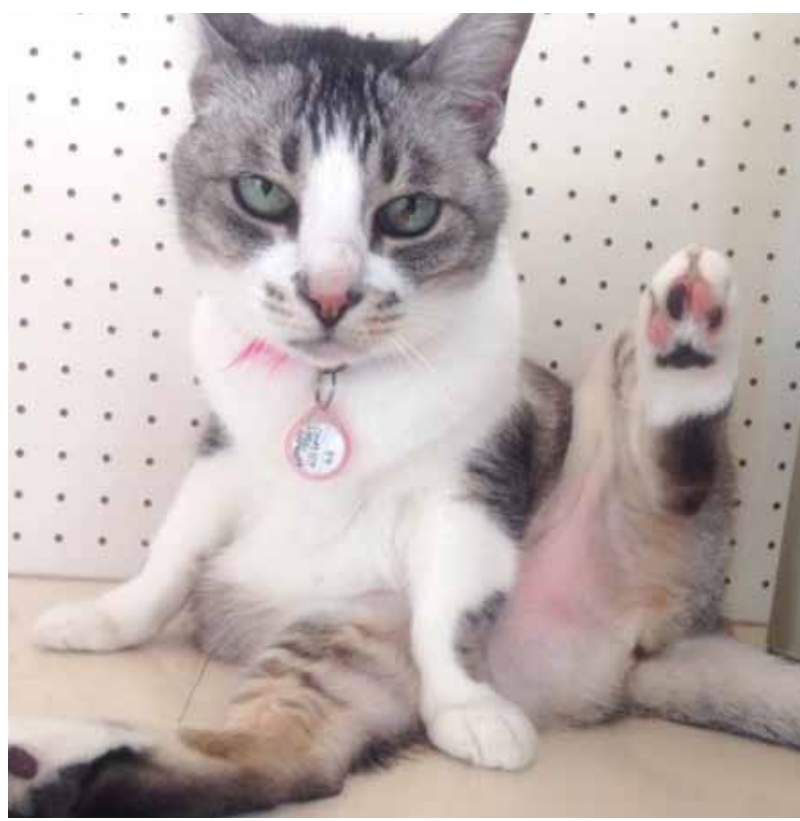
## ～新潟での継続支援～

さまざまな事情から飼い主さんと一緒に暮らせないペットを福島から搬送し、ホームページでボランティアを募り、一般の家庭でお預かりしました。



搬送も支援

スタッフが大切にお預かりしてたキキちゃん



浪江町の飼い主さんからお預かりしたムクとアン。1ヶ月間、無人の家で飼い主を待っていた



NDN代表が引き取ったメルク。学校訪問活動で子どもたちにペット防災の大切さを伝える



段ボールに入れられて新潟に避難(猫のライム)